

南吉野村の春

作岡田鉄兵

【登場人物】

杉本 雄一

(38)

村役場職員

杉本 龍

(35)

元ヤクザ

アキラ

(35)

便利屋

やす江

(79)

農家

奈良県南部の山間部にある杉本家。

田舎の一般的な木造二階建て。

夏の終わりの夕方。

薄暗い舞台。

上手には六畳の仏間。立派な仏壇がある。

仏間に続いて中央に十畳の居間。テレビ、ちゃぶ台、座布団などが配置されており生活感がある。

ちゃぶ台の上には大きな寿司桶がひとつ。

その下手は玄関へ繋がっている。

また、玄関には二階への階段もある。

照明がつくと、居間で忙しく動き回る杉本雄一（38）がいる。

丸顔でメタボ体型、人の良さそうな雰囲気である。

雄一は座布団をひっくり返したり、寿司桶の向きを変えたり、時計を何度も確認したりと落ち着きがない。

そこへスマホの着信音。

慌てて出る雄一。

雄一（電話に）い、今どこや！ ……何や、やす江さんかいな……なんで？

この間は弟に教えたるて言うてましたやん。誰に反対されたか知らんけど、話がちやいますよ。

玄関の方で車が停まる音がする。

雄一（電話に）あとでかけ直します！

雄一は電話を切り、慌てて玄関に立つ。

長い沈黙。

何の反応もないので雄一がドアに近づくと、突然開く。

そこには杉本龍（35）が立っていた。

龍は三十半ばには見えない若い風貌。

髪は短く大学生でも通用するさわやかな青年だ。

手にはボストンバックを持っている。

龍 ……。

雄一 お、おかえり。

龍 ……ただいま。

雄一 やっぱり、迎えに行った方が良かったな。

龍、首を左右に振り、下を向いたまま固ってしまう。

雄一 ま、そんなトコに突っ立ってないで、とりあえず上がりイや。

龍 (頭を下げ) 恥ずかしながら帰って参りました。しばらくお世話になります。

雄一 硬い挨拶は無しやで。

雄一、龍の腕を引っ張って居間に連れてくる。

雄一 ほら、お前の好きなちらし寿司や。兄ちゃんが頑張って作ってんで。いっぱいあるから、たくさん食べてや。

龍 先に手エ合わせていい？

雄一 ああ、そうやったな。

龍、雄一の前を通り、仏間へ行く。

そして仏壇の前に正座し、リンを鳴らす。

龍 (手を合わせ、ブツブツつぶやく)

雄一は隣の部屋から覗いている。

終わると居間に戻ってくる龍。

二人はちゃぶ台の前に座る。

雄一 さあ、遠慮せんと喰え。オカンのほどおいしくはないけど。

龍 ごめん、外で済ましてきた。

雄一 外？

龍 ラーメンとかつ井。

雄一 もしかしてビールもか？

龍 もちろん。

雄一 『幸せの黄色いハンカチ』の健さんと一緒やんけ。小さい頃、テレビ

でやってるの家族で何回も見たよなア。それで遅かったんか。

龍　でも、すぎっ腹にビールはアカンわ。指の先までしみるどころか気持ち悪くなった。味も最悪やし、現実は厳しいな。

雄一　何やそれ。

龍の表情が初めて緩む。

雄一　じゃあ、酒もやめとくか？

龍　うん。でも、悪いから少しだけ貰うわ。(寿司を食べて)……オカンのと一緒ぐらい旨いで。(手を合わせ)ごちそうさま。

雄一　残りは明日の朝にでも食べる。

龍　二、三日はここにおらせてもらう。その間に身の振り方決めるわ。

雄一　アホ、何言うてるねん。ずっとおつてくれてええねん。ここはお前の家や、堂々としとけ。

龍　そんな厚かましいこと。

雄一　どっちが厚かましいねん。親の遺産全部、兄ちゃんのモンになつてんぞ。

龍　当然や。オレのためにカネもたくさん使ったやろうし。

雄一　そんなことあらへん。それにこの家は一人では大き過ぎる。田んぼもいらんし。そうそうお前、農家でも始めたらどうや？

龍が笑い出す。

雄一　何がおもしろいねん？

龍　元ヤクザが農業って笑えるやん。それも殺人未遂のムショ帰りの人間が。

雄一　オレは本気やぞ。田んぼの手入れもしてる。やす江さんに作り方を教えて貰うように頼んであるねんで。

龍　あのおばあちゃん、まだ元気なんや。でも、よく頼めたな。

雄一　ダメ元やっつてんけど、酒飲ませたら、「よっしゃ」て返事したで。

龍　気持ちは嬉しいけど顔の知れた前科モンは、熊が出る田舎では暮らされへん。

雄一　そんなド田舎やない。今はパチンコ屋だけやなく、ツタヤもできてんぞ。近くにイオンもある。映画館まで付いてるショッピングモールや。近所言うても、車で五十分かかるけどな。それに国道沿いにはスタバができ

るて噂もあるねんで。

思わず吹き出してしまふ龍。

雄一 何がおかしい？

龍 (首を横に振って) 昔と変わらんと、この村が好きやねんなア。

雄一 当たり前や。三十八年間、ずっとここやぞ。吉野村は桜の名所やけど、この南吉野は散った花びらが集まるぐらいで何も無い村やってヨソにはバカにされて、地元のアホ共は都会へ逃げよる。そんなことより、お前はここに住めってことや。

龍 オレ、大阪に出るつもりやけど。

雄一 大阪で何するねん？ またヤクザか？

龍 破門なってるし、やる気もない。

雄一 じゃあ、どうするんや？

龍 細々と生きていこうと思ってる。

雄一 この世間知らず。ヤクザの幹部を撃った人間なんか、どこも相手にしてくれへん。しょうもないこと考えんと、ここで立ち直ったらええ。

龍 立ち直るってのは、真つ当に生きて来た人間が何かで失敗して、そこからもう一度頑張ることやろ？

雄一 そうや。

龍 オレはずっとグレてたから、立ち直るにはならん気がするわ。

雄一 ヘリクツ抜かすな。

龍 それに、撃った相手は当時幹部やったけど、今は組長になってるねんで。

雄一 そんな細かいことは、どうでもええ。

龍 これ以上、兄ちゃんには迷惑かけられへん。

雄一 全然かかってない。

龍 かかってる。

雄一 そら、少しぐらいは。

龍 (さえぎって) 少し違うって。

雄一 だから、ちよっとやって。

龍 いっぱいや。仕事も村役場やから良かったてん。普通の会社なら、居てられへんわ。

雄一 確かに兄はヤクバで弟はヤクザかって、嫌味は言われるけど。

龍 近所付き合いはどう？ 田舎ではそういうの大事やのに、オレ帰って来たら悪くなるで。

雄一 全く気にしてへん。

龍 結婚も直前でダメになってんやろ？

雄一 お前まで知ってるんか。誰が言い回ってるんや。

龍 身内にロクでなしがおるて知られたのが原因やな？

雄一 フラレただけや。兄ちゃんは昔から女によく逃げられるねん

龍 嘘や。

雄一 ホンマやがな。

龍 ツレから色々聞いてるで。

雄一 ここらの者と付き合いあるんか？

龍 (首を横に振り) 便利屋してる奴や。それに調べて貰った。だから全部分かってる。相手はネットで知り合ったヒト。実家は弁当屋をやってる。

雄一 今の時代、個人情報もへったくれも、あらへんで。

龍 そういうことで、オレがこの家におっていいことはひとつもない。

雄一 あるわ。

龍 何があるん？

雄一 死んだオトンとオカンが喜ぶ。五体満足で、指まで揃って帰って来たんやで。

龍 兄ちゃんに迷惑かけてばかりで嬉しいワケないやん。

雄一 喜んではオカンたちだけやないで。

龍 誰？

雄一 ……兄ちゃんもや。帰って来るの、めっちゃ楽しみにしてたんやで。

龍 (照れて) やめてーや、冗談きついわ。

雄一 兄ちゃん、笑いのセンスあるやろ？

龍 恥ずかしいから、そういうのええわ。(お腹をポリポリかき) 体かゆくなる。

雄一 しかし運が良かったで。

龍 運？

雄一 お前が逮捕された時、オトンが亡くなってや。あの真面目人間が生きてたら。

龍 考えるだけで恐ろしいな。オカンの方は大丈夫やったん？

雄一 新聞に龍が出たのには驚いてた。でも、ああいう場合は女の方が根性あるで。お前の写真見て「もっと男前の無かったんかい」て何回も言うてたもん。

龍 さすがやな。オトンやったら泡吹いてひっくり返ってるわ。

雄一 いや、心臓止まったで。だって飲む打つ買うに趣味もない。田んぼ一筋や。ロクに喋りもせんから、何考えてるか分からん変人やったけどな。

龍 オトンで思い出したけど、職業体験で地元の女子中学生が十人ぐらいで田植えに来たの覚えてる？

雄一 そういえば、あったなア。

龍 みんなブルマに着替えて、泥だらけで稲植えるねん。すると見事に女子中学生のお尻が田んぼに並ぶ。

雄一 まさかオトン、それ見てたんか？

龍 ううん、ずっと横見て作業してた。それで、次の日に首の筋違えて寝込んだ。

龍と雄一、大笑い。

雄一 オカンと手エ触れただけで、顔赤くしてたもん。ようエッチできたわ。オレ、親不孝いっばいしたけど逮捕前に死んでくれたのは助かったわ。

雄一 (うなずき) でも、オカンは無念やったで

龍 ……。

雄一 龍の出所を指折り数えてたもん。あの子の好きならし寿司作ってる言うて気合入ってた。それが三か月前に。

龍 あと、ちよつとやったな。

雄一 死んだ日な、なかなか起きて来んかったん。それで部屋覗いたらオカシンまだ寝てるんや。兄ちゃんより遅なるのは絶対ない。変やなアと思って部屋に入ったんや。

龍 ……。

雄一 呼んでも揺すっても、全く反応ないねん。

龍 ……。

雄一 それで布団捲ったら、オシッコ漏らしてた。こらエライことやて救急車呼んだら、心筋梗塞で病院着く前にアカンかった。

龍 あっけないなア……。

雄一 お前の月二回の面会、全部行ってたけど今日が一番会わしてやりたかったで。

龍 (何度もうなずき) オレもや。

少し間がある。

雄一 オトンもオカンも、兄ちゃんより、お前の方が可愛かったんやで。

龍 親不孝のオレなワケないやん。

雄一 それは違うぞ。龍は特別なんや。

龍 顔はイケメンやけどな。

雄一 そんなんとちゃう。昔から龍がおらんと何か家が暗い。早く帰って来  
いってみんな思ってた。口には出さんけどな。

龍 ウソやわ。

雄一 ホンマホンマ。龍が帰ってきたら部屋がパツと明るくなる。そうなる  
と活気付いて喋り出すんや。

龍 大げさな。

雄一 何もしなくてもおるだけで和むんや。お前はそんな人間なんやで。

龍 違うと思うけどなア。

雄一 不思議やけど事実なんやって。

龍が大きなあくびをする。

龍 兄ちゃん、オレ疲れたからそろそろ。

雄一 えっ、まだ寝る時間やないぞ。

龍 あっちは夜が早いねん。

雄一 (腕時計を見て) それにしても。

龍 久しぶりのシャバで疲れたんやわ。

雄一 そうか。お風呂はどうする?

龍 スーパー銭湯に寄って来たから大丈夫。

雄一 じゃあ、寝る用意するわな。

仏間に行く二人。

雄一が二つの布団を並べて敷き始める。

龍 ……どういうこと?

雄一 (枕を用意しながら) 隣に兄ちゃんも寝るからな。

龍 なんで?

雄一 (無視して、布団のフワフワを確かめ) 昼に干しといたから気持ちえ  
えで。

龍 ひとりで寝たいねんけど

雄一 刑務所出たてのヒトは精神が不安定やねんて。だから、なるべく一人  
にするなってネットに書いてあったで。

龍 それでも、やり過ぎちゃう?

雄一 じゃあ、風呂は別々にするか。



龍 一緒に入る気やったん!?

雄一 冗談やがな。

龍 兄ちゃんの冗談は笑えんわ。

雄一 そうや、大事なこと忘れてた。

雄一が部屋を飛び出して、二階への階段を上っていく。

龍、布団同士の隙間をあける。

すぐに着替えを持って戻ってくる雄一。

雄一 オカンがお前帰ったら、これを着させるって買ってたんや。

雄一がTシャツを広げる。後ろに登り龍の刺青がプリントされていた。

龍 ……何それ?

雄一 名前と一緒に龍や。それも上を目指す登り龍やから縁起もんやて言うてた。で、もうひとつはコレや。

別のTシャツを広げる雄一。背中にマサカリを担いだ金太郎のプリント。

雄一 ジャーン、金太郎。

龍 意味わからんけど。

雄一 ビジュアル的に兄ちゃんに似てるからやろな。

龍 ただの悪ふざけやん。

雄一 おもろいやんけ。

雄一が龍にTシャツを渡す。

龍 いらんで。そんなん無くても、背中に龍が二頭おるし。

雄一 龍の単位って『頭』なんか?

龍 実際にはおらんから、何でも構わんのとちやう。

雄一 まあ、親孝行やと思って仏壇の前で着替えたって。

龍 嫌やわ。

雄一、じつと龍を見つめる。

龍 だから、嫌やって。

雄一 (龍を凝視している) ……。

龍 なに？

雄一 Tシャツはもうええ。率直に言う、兄ちゃんに二頭見せてくれへんか？

龍 何ちゆう兄貴や、ただの興味本位やん。

雄一 (仏壇を指差し) ほら、オトンも見たいて言うてるわ。

龍 あのヒトは絶対言わん。

雄一 がまだ龍を見つめている。

龍、諦めたようにため息を吐き、ゆっくり服を脱いで上半身裸になる。そして背中を見せる、だが刺青はない。

雄一 え……。

龍 今は無い方が多いんやで。銭湯やプールも入店お断りやからな。

雄一 ショック。

龍 してて欲しかったん？ 身内やで。

雄一 嬉しいような寂しいような、ビミョーな感じやわ。

龍 兄ちゃん。

雄一 どうした？

龍 下らんことやめよ。早く寝たいねん。

雄一 すまんすまん。

二人とも黙って着替える。

龍 (雄一が着替えているのを見て) 兄ちゃんも寝るん？

雄一 眠くないけど付き合うわ。

龍 別にいらんけど。

雄一 遠慮すんなや。

部屋を薄暗くして布団に潜る二人。

目をつむる龍、それを横目で見る雄一。

雄一 ……寝たか？

龍 ……。

雄一 もう寝たん？

龍 ……。  
雄一 なア？  
龍 修学旅行の夜か。好きな女子の名前でも言い合うか。  
雄一 いっちょやってみる？  
龍 (無視して) あっ、言うの忘れてた。  
雄一 何や？  
龍 ムシヨで寝てる時は一番危険な時間やねん。だから、オレに少しでも触れたら反射的に殴ったり、馬乗りになったりするクセが出るかも知れん。気イつけや。  
雄一 マジで？  
龍 冗談や。  
雄一 お前の冗談は怖すぎる。少しは笑いのセンスをな。  
龍 (話を終わらすように) おやすみ！  
雄一 ……。

長い間。

雄一 つらかったやろ、中は。  
龍 ……。  
雄一 よう辛抱したな。  
龍 ……。  
雄一 (優しく) おやすみ。  
龍 ……。

雄一も目をつむる。

秋の虫の音が聞こえてくる。  
暗転。

②

次の日の朝。  
仏間の布団は敷かれたまま。

居間にいる龍は刺青プリントのTシャツ姿で新聞を読んでいる。そこへスラックスに白シャツを着た出勤前の雄一が焦りながらやってくる。

雄一 (ひとつずつポケットから出して) 財布よし、鍵よし、スマホよし。

龍 今でも確認やってるんや。

雄一 朝の習慣やから治らん。

龍 時間が無くて？

雄一 あんなに早く寝たのに寝坊するとは。お前、先に目エ覚めたら普通起こすやろ。

龍 気持ち良さそうに眠ってたから。

雄一 のん気な奴やで。一応、これ渡しとく。

ちやぶ台にスマホを置く雄一。

雄一 使い方は分かるか？

龍 浦島太郎やないねんで。でも、こんなん貰っても使わんで。

雄一 何があるか分からん。

龍 何もない。仕事ないし、友達もおらん、ついでにカネまでない。

雄一 それでも必需品や。今時、スマホ持ってない大人なんて信用ならん。そう思わ。

龍 (さえぎって) 分かったから、早く行き。遅刻するで。

雄一 布団上げといてや。あと寿司も。

龍 ハイハイ。

雄一が出ていく。

少し経つと新聞を畳み、ポケットから紙を出す龍。

それを見て、電話をかける。

龍 (スマホに) オレや、もう大丈夫。……おお。

切るとすぐにドアが開き、黒スーツで強面のアキラ(35)が入ってくる。

龍、慌てて玄関まで行く。

龍 めっちゃ早いな。

アキラ (外を指差し) 裏に隠れていました。

龍 誰かに見られたか？

アキラ いえ、車も離れた場所に停めてます。

龍 さすがプロや。

アキラ 昨日言いそびれていたの、今言わせて頂きます。お勤めご苦労様でした。

龍 そんなんやめてくれ。早く上がって。

龍とアキラが居間に入り、座る。

龍 遠いトコ、呼び出して悪いな。ちらし寿司でも食べるか？

アキラ ちらし……いえ、結構です。

龍 (アキラの服装を見て) 昔より貫録出たなア。現役のスジもんみたいやで。

アキラ 龍さんもすごいモンモンをお召しで。

龍 (Tシャツを触り) これは親孝行や。

アキラ 刺青が親孝行？

龍 お前こそ、そんな服で仕事か？

アキラ これはユニフォームです。

龍 便利屋って、一体何するねん？

アキラ 一番多いのはトラブル処理ですね。法人、個人、どちらも承ります

龍 ヤクザと変わらん。

アキラ 昔みたいに脅したりはしません。敬語でお話をします。

龍 その風貌で丁寧なのは余計怖いで。

アキラ 中身は立派な堅気に戻りました。

龍 当たり前や。……ところで、あっち様子はどうか？

アキラ 出所したことは、まだ誰にもバレてません。私自身も龍さんが事務所に来られて知ったぐらいですから。

龍 そうか。

アキラ 事前に教えて頂けてたら、他にも調べておいたのですが。

龍 そんなんしたら情報が漏れる。

アキラ でも、向こうに知られるは時間の問題だと思われま。

龍 そらそうや。で、肝心な方はどうや？

アキラ う〜ん。

龍 オレを殺しに来ると思うか？

アキラ 組長はまだ怒ってるという情報は耳にしました。

龍 (苦笑する) やっぱりか。

アキラ ウチの事務所で隠れませんか？ 給料はあまり払えませんが、とりあえず電話番号をしながら暮らしてもらって。

龍 電話番号か、ヤクザの見習い以来やで。

アキラ 決してそういう意味では。

龍 分かってる。しかし、ずっと隠れ続けるワケにはいかんやろ。

アキラ 時間を稼ぐだけ稼いで知恵を絞れば。

龍 ムシヨで随分考えた。だが、いい答えは無い。

アキラ 今の時代なら逃げようはいくらでもあると思います。例えば、海外逃亡とか。

龍 そのカネはどこにある？ フィリピンでも向こうのポリ買収したり、結構いるぞ。(アキラを見つめて) 誰かが出してくれるなら話は別やがな。  
アキラ ……。

龍 それにヒットマンに狙われたら、どこ逃げても無駄や。地の果てまで追ってくる。

アキラ はア。

龍 ま、撃たれて黙ってるヤクザの組長さんはおらん。いくら、あの時に話がついたとしても今とは状況も違う。

アキラ ハイ、激変しました。

龍 西谷、今は西谷組長か。アイツ、絶好調らしいな。エライ商売思いついて、トップにまで登りつめたんやもんな。

アキラ フロント企業で錦鯉のブリーダーをやってます。

龍 シノギが魚の売買か、凄いやで。

アキラ 世界中で錦鯉ブームになって、値段も跳ね上がってるんです。

龍 立派な実業家気取りやな。

アキラ 品評会で賞を獲った鯉のオーナーを脅して安く買い叩き、それを自宅隣の巨大な池で大量に繁殖。そして売りさばいて、ボロ儲けしてるんです。

龍 やってることはヤクザの典型や。安い価格で仕入れて、高く売りとはす。右から左にという土地ころがしと何ら変わらん。

アキラ 表向きは水産業者で、捕まることはない。今や稼ぎの九割は鯉らしいです。

龍 現代の極道はドンパチはない。損得だけや。しかしそんな奴らは、トラブったら終わりや。カネだけでは無理なこともある。

アキラ ヤクザはカネと違いますか？

龍 それはちやうど。最後はやっぱり力や。暴力団言うからには、そこが

大事なんや。時代でカタチは変わるが必要やで。

アキラ まあ、ウチの組は古風で昔気質のままでしたから力だけはありません……。

龍 オレがおらん間に対立してた西谷の傘下に入って、仲良しこよしとは考えもせんかった。たった四年半で立場が逆転か。

アキラ 龍さんが捕まってから、カジノバーに次々とサツの捜査が入り、潰されました。飲食店のミカジメ料も年々減ってしまい、収入のほとんどなくなりました。

龍 困った時ほどヤクザの腕の見せどころやけどな。

アキラ その後は内輪揉めが始まり、上の連中が次々抜けて組は落ちるとこまで落ちた。

龍 ……。

アキラ そんな時、サツから西谷のトコと手打ちしろと命令が出て、それで私は情けなくなって足洗いました。龍さんが帰って来るまで頑張ろうと思ってたのですが……。

龍 ところで、オヤジは今何をしてる？

アキラ 故郷に帰って隠居生活です。

龍 あれほどネオン街が好きなヒトが大阪から逃げ出したか。

アキラ 出所祝い受け取りました？

龍 もう貰う筋合いとちゃう。

アキラ あのケチなクソオヤジめ。

龍 そう言うたるな。

アキラ 私、腹立ってます。

龍 オレは呆れてる。ハジキ撃つの、オヤジの方やったんかなって。

龍は笑うが、アキラはうつむき黙る。

龍 オヤジ選びを間違ったみたいやな、オレら。

アキラ 私は龍さんが兄貴で本当に良かった。心からそう思っています。

龍 こそばいこと言わんとってくれ。

アキラ ……本当は私が鉄砲玉をやるはずだったんですよね？

龍 お前が？

アキラ あんなの下っ端の仕事です。だから。

龍 あれは直々にオレに話が来た。

アキラ ホントですか？

龍 アキラやとビビって失敗しよる。だから、お前がやれって。

アキラ そんな風に思われてたのですか。情けないです。

龍 オヤジに頼まれたらしようがない。西谷の勢いを止める意味もあるし。嫌がらせも相当酷かったからな。

アキラ 裏カジノをサツにチンコロしたのもアイツです。でも、何でオヤジは龍さんに。私がヘタレでも他にも若いのはいました。

龍 オレも盃もらって十年で鉄砲玉やるとは思ってもなかった。名前売る歳やないし。まあ、その話はもうええやろ。

アキラ 何も知らずに、組員は龍さんをボロクソに言っていました。失敗しやがってとか。

龍 オレに責任を押し付けるようオヤジに言うといった。殺せんかったのも事実やしな。

アキラ 西谷の奴、今でも後遺症で左足を引きずって歩いてますよ。

龍 (ニヤリと笑い) 裁判でも明らかに言ってない情報教えたるか？

アキラ 何です？

龍 オレが西谷を撃った時の状況や。

龍が身を乗り出して、説明を始める。

龍 ひとりで銭湯にいるところに、いきなり飛び込んだことになってるやろ？

アキラ 違うんですか？

龍 それは合ってる。しかし理由があるんや。何でオレがあそこを狙ったか。

アキラ ボディーガードが付いてないところを下見して、知ったからじゃないですか？

龍 だが、何でそれをすぐ見破ったかや？

アキラ 風呂場だから。

龍 ちやう、キチンと秘密があるんや。

アキラ ヒミツ？

龍 (頭を指差し) アイツ、ツラや。

アキラ えー。

龍 それにシークレットブーツまで履いてる。

アキラ 本当ですか？

龍 その噂を知ってたから銭湯に決めた。絶対にひとりであるであろうと。大正解やった。

アキラ それなら、なぜ失敗を？



龍 結果はそうやねんけどな。

アキラ どういうことですか？

龍 ここからおもろいトコや、よう聞け。

アキラ ハイ。

龍 西谷は銭湯の開く一時間前に貸し切って入るんや。オレはそこに行った。

アキラ そこまでは裁判通りです。

龍 店の裏口から入って、そのまま風呂場に向かった。したら頭を洗ってたんや。しかしオレに全然気づかへん。だから、「おいッ」て後ろから声をかけた。したらアイツ情けないで、驚いて腰抜かしたんや。

アキラ マジっすか？

龍 頭はハゲ散らかして、体は痩せて背中 of 虎の刺青は張りが無くて垂れ目になってるねん。まるでパンダや。

アキラ (笑いながら) サイコーです。

龍 それで蚊の鳴くような声で命乞いをするねん。「はすくれくれ」って。

アキラ はすくれくれ？

龍 入れ歯してないから「助けてくれ」が言えんや。それ見たら、撃つ気失せて、こっちが困ったで。

アキラ 笑ってしまつて外したんですか？

龍 いいや。ハジキの腕には自信がある。

アキラ なら、成功するはずでは？

龍 ワザと失敗したんや。

アキラ ？

龍 最初から殺す気なんかなかった。これがヤクザの最後の仕事やと決めてたんや。

アキラ ……。

龍 できるだけ近づいて、かすり傷程度にしてやろうと思つてな。

アキラ それなら傷害罪になる。

龍 ああ。しかし動くなつて言うて引き金をひいたら、恐怖で逃げようとした。

アキラ それで太ももへ当たつてしまった。

龍 (うなずき) 殺人未遂で懲役六年や。

アキラ 裁判では全く言わなかったんすね。

龍 もう、どうでも良かった。でも撃たれた後、西谷はカツラ付けて靴履いてから助け呼んだんや。その根性だけは認めたる。

アキラ よほど隠したかったんですね。  
龍 だから、知られたオレへの恨みは相当なモンやと思う。

説明が終わり落ち着く龍。

龍 あっちの用意はしてくれたか？

アキラ あの、それがですね……。

龍 お前が無理なら他当たるけど。

アキラ できてます。

龍 レンコンか？

アキラ トカレフです。弾も充分あります。

龍 ありがとう、助かるわ。

アキラ いえ。……他に道はないんですか？

龍 ない。やるか、やられるかや。成功する確率は五分五分ぐらいやろ？

アキラ それ以下でしょう。仮に殺せたとしても、龍さんがやったとバレたら。

龍 今度は十年以上入るやろうな。

アキラ それだけならいいんですが死ぬまで命狙われますよ。

龍 警察にも誰にも分からんようにやる。証拠は残さんから大丈夫や。

アキラ かなり難しいと思いますけど。

龍 何もやらんよりはマシや。それに成功しても失敗しても、世の中でいらん人間が減る。みんなに感謝されるぐらいやで。

アキラ 全て上手く行けばいいですが……。

龍 それに賭けるしかない。

アキラ しかし大きな組のトップを完璧に抹殺するのは奇跡に近いですよ

龍 どっちにしても、逃げ回る人生はオレには無理や。立ち向かう方を選ぶ。

アキラ 負け覚悟で挑むなんて昔の任侠映画です。

龍 そんなカッコいいモノやない。ただそういう方法しか思いつかないのや。

アキラ そこまで覚悟してらっしゃるなら。

龍 ん？

アキラ チャカカ以外にも全部用意させてもらいます。あと西谷のことも調査します。

龍 さすが便利屋さん。

アキラ 決して乗り気ではないんですよ。それだけは分かっておいてくだ

さい。

沈黙する二人。

龍 ……銭湯でトドメ刺しておくべきやったな。なら、組も無くならんかったし、お前も今頃は出世してた。オレの刑期は倍になってたけどな。

アキラ 私はどうでもいいんです。組も。

龍 オレもシヤバに出て、これほど怖がる必要もなかった。流れを読み間違ったな。

アキラ 龍さん、変わりましたね。

龍 何がや？

アキラ 凄み無くなりました。

龍 ムシヨに忘れて来たからな。

アキラ 今度、私が入ったら取ってきます。

龍 頼んだぞ。

龍とアキラ、少し笑みを浮かべる。

アキラ あと、おカネなんです。

龍 くれるんか？

アキラ あまり出せませんが。

龍 一千万。

アキラ そんなには。

龍 オレの貯金額や。

アキラ そうですか。

龍 鉄砲玉する前にオヤジから三百と刑務作業金の五十もある。カネには困ってない。

アキラ 私にも少しぐらい出させて。

龍 (さえぎって) いらん。もう言わすなよ。

アキラ ……分かりました。

龍 ムシヨの中で色んなヤツと会ったで。

アキラ ハイ。

龍 殺人犯にもな。

アキラ はア。

龍 殺した理由はみんな色々や。でもな、全員話したがるんや。どこまで盛ってるか嘘なんかは分からんけど饒舌にな。

アキラ 自慢ですか？

龍 最初はオレもそう思ってた。だが、あれは懺悔や。喋って楽になりた  
いんやな。みんなイヤな夢見て、うなされるて。

アキラ そういうものなんですね。

龍 聞くにつれて、オレはホンマにやらんで助かったて心底思った。

アキラ だったら今回は何でやるんです？ 矛盾してますよ。

考え込む龍。

龍 ムシヨでは他にも考えさせられた。小さい世界で、狭い視野で生きて  
たんやつて。

アキラ 私も足洗ってから、よく思います。

龍 オレ、ヤクザ向いてなかった。

アキラ いえ、一流でしたよ。

龍 三流やで。根っから真面目やもん。兄ちゃんやオトンと同じ血が流れ  
てる。

アキラ ヤクザも真面目な方がいいです。

龍 オレのはクソがつく。極道は少々のリスクなら、やらなアカン。それ  
を考え過ぎてチャンスが逃がしてた。

アキラ シノギはキッチンとできてました。

龍 お前らみたいな弟分が増えてから余計に消極的になった。責任持て  
んから怖くなったんや。大勢連れて繁華街歩くのが夢やったのに、それが  
重荷になってた。

アキラ ……。

龍 そんな時に鉄砲玉の話が来た。これでキレイさっぱり辞められる。オ  
ヤジの顔も立てれるし、正直助かったと思った。

間がある。

アキラ ……よく分かりましたが、龍さんはもう極道じゃないんです。格好  
悪くても、恥ずかしくても、逃げて逃げて逃げ回って。

龍 (さえぎって) 堂々巡りやで。

アキラ でも。

龍 オレにお説教する気か？

アキラ ……いえ。

突然、荒々しくドアが開く。

やす江（79）が玄関に入って来た。

農家のおばあちゃんといった感じの服装で声もやたら大きい。

やす江 おい、おらんのか？

龍 （アキラに）隠れとけ。

玄関に出る龍、アキラは仏間に隠れる。

やす江 おお、刑務所帰り。ちょうどお前に話が合ったんや。

龍 お久しぶりです。

やす江 あのな、米作りを教えたるて言うてたけどな、アレ無しになったわ。

龍 ハイ、兄が勝手に進めたみたいで迷惑かけました。

やす江 すまん。

龍 いえいえ。

やす江 ……ほなな。

やす江が去っていく。

居間に戻ってくる龍とアキラ。

アキラ （笑顔を浮かべ、仏間を指差し）あそこで、お兄さんと一緒に寝てるんですね。

龍 悪いか？

アキラ いえ。……さっきのおばあちゃんと農業する予定だったんですか？

龍 オレが農家なんてガラやない。

アキラ 案外似合う気がしますけど。

龍 どういう意味や？

アキラ 深い意味はないです。それにしてもあのおばあちゃん、声が大きかったですね。

龍 完全に酔ってたわ。酒臭かったもん。

アキラ それで元ヤクザ相手に怖がらなかつたんですね。

龍 小さい頃から知ってるからや。いや、そんなにも関係ないおばあちゃんやな。

またも荒々しくドアが開き、やす江が戻って来た。

そして居間に上がってくる。

龍 (驚いて) どうしたんです？

やす江 決めたで。やっぱ秘伝の米作りのイロハを教えたる。

龍 へ？

やす江 身内は死んで誰もおらん。ウチもいつ逝ってもおかしくない。だから、早よせな。

龍 でも、さっきは無理やって。

やす江 さっきはさっき。過去を振り返らんとよう聞け。

龍 はあ。

やす江 近所のモンは、お前が帰ってくるのを快く思っへん。

龍 でしょうね。

やす江 そんなもん関係あらへん。刑務所で罪償のうて、ヤーサンも辞めたのに何でそないなと言われなアカン？

龍 はあ。

やす江 こんな村では前科モンは珍しいが、世間には仰山おる。それぐらい何やつちゅーねん。(アキラに) そう思うやろ？

アキラ ですね。

やす江 田舎もんは性格が悪いのが多い。特に、ここらのは性根まで腐ってる。

アキラ そんなにヒドいですか？

やす江 テレビなんかで山村暮らしはええでっせみたいのやってるやろ？あのとぐいのは大っ嫌いや。ほんでな、憎まれっ子世にはばかるってことわざ、あれホンマやで。この村も汚い人間ばかり生き残っとる。

龍 話が次々飛ぶわ。

やす江 ウチに親切する奴らは田んぼや米作りの知識が欲しいだけなんや。龍 考え過ぎと違います？

やす江 いいや、ウチには全部分かつとる。(龍を指差し) しかしお前はちやう！

龍 ？

やす江 二十年前、デツカイ台風が来て、大変やったの覚えてるか？ 立花さんの家が流されたヤツや。

龍 なんとなく。

やす江 どアホ、忘れるな。その時、ウチの旦那が風で飛ばされて、腰を打って動けんようになった。それをオンブして連れて帰ってくれたやろ。思い出したか？

龍 ありましたね。でも、あれはおじいちゃんが「ワシをおぶれ」って命令したんで仕方なくでしたよ。

やす江 ええ話を壊すな。確かに旦那はエラそうな口叩くて近所で嫌われてた。その旦那が死ぬまでお前を好青年で言うてた。ピストルぶっ放して逮捕された時も、あの子なりの言い分があるはずやて。

アキラ その通りです。

やす江 邪魔すな！

アキラ すみません。

やす江 兄貴もアホやけど、あれはあれで味のあるオトコや。親も真面目に農家してた。

龍 結局、何です？

やす江 分からんやっちゃ。ウチは七十年、百姓をしてきた。最近は思うように体が動かん。技術を伝えたいが後継者もおらん。先祖から頂いた土地を無駄にするのも申し訳ない。

龍 この村で跡継ぎできそうなのは、いっぱいいますよ。

やす江 近所の連中は嫌やて言うてるやろ。都会もんは財産狙いやし、田舎のしがらみの醜さも知らん。だから、お前が適任や。

龍 一応、このモンですけど。

やす江 ちようどええ具合に都会も知つとる。

龍 周りが許しますか？

やす江 ウチ、後期高齢者になって五年目や。世間を気にするか、ヤクザが怖いから、アホ臭ッ。それより、このまま死にたくない。

アキラ 技術を伝承したいんですね。

やす江 ちやう、後悔を残したくないだけや。

龍 後悔？

やす江 お前ら、若いから分からんねん。人生で一番悔やむんは下手打つんやない。

アキラ 下手打つ？

龍 失敗するってこと。

やす江 挑戦せんかったんを後悔するんや。怖がったり、世間の目エ気にしたりしてな。こんなババアなって、やる気が出てきた。今を逃すとカラダもついでいかん気がする。そう思て戻って来たんや。

龍 オレ、無理ですよ。ここ四年、刑務作業でヨーグルトのスプーン入れるしかやってませんから。

やす江 それぐらいの時間無駄にしたからって何や。大学通てたと思つとけ。それにな、小さい頃は家のを手伝わされてたやろ？

龍 そりゃ、まあ。

やす江 基礎から教えるさかい二人で頑張れ。

アキラ ふたりって、もしかして私も？

やす江 チンピラ、おのれ以外に誰がおる。どうせ悪事働いて稼いでるんやろが。少しは汗水垂らしてゼニ貰わんかい。

アキラ そんな、とんでもないですよ。私は真面目に生きてます。(やす江に名刺を渡し)どんなトラブルも電話一本でかけつけ、迅速に対応致します。もちろんコスパも抜群です。

やす江 (名刺を見て)何が便利屋や、便器みたいなツラしやがって。

アキラ むちやくちや言いますね。

やす江 百姓はアホでもできる、つまらん仕事や。だがな、毎日根気よう続ける根性はいるねんど。

龍 ありがたい話ですけど。

やす江 (さえぎって)明日から、田んぼに来れるんか？ え？

龍 無理ですよ。

やす江 (無視して)はっきり言うぞ。

龍 何です？

やす江 今まで誰にも内緒やったが、何でウチの作った米がここらで一番旨いか？

龍 さあ。

やす江 特別な技術も頭もないババアが作ったのに。

アキラ 気になりますね。

龍 (アキラに)お前、関係ないやろ。

やす江 それは……(ニタリと笑い)農薬や。

アキラ 農薬？

やす江 稲が虫に食われたり、病気なったりが米に一番アカン。それを防ぐんや。

アキラ 農薬は誰にでも手に入るでしょ？

やす江 最近のは健康や言うて弱いのはっきりや。

龍 じゃあ、大量に使ってるんですか？

やす江 使わん。(満面の笑顔で)自分で作ってるんや。

龍 オリジナル？

やす江 ウチもよう知らんけど戦時中の米不足で実験的に使ってたヤツがあるんや。それがスゴイ効き目なんや。戦後は規制されて禁止になったんやけどな。

龍 それを今でも使ってるんですね。



やす江 ああ。その農薬の成分を旦那はどっかから知ったんや。売ってないなら自分で作ってる。どや、ゴツツイやろ。

龍 ……。

アキラ ……。

やす江 どんな病気も害虫もイチョロや。雀も寄ってこん。ついでの成長まで早いんや。

アキラ 人間にも害あるんじゃないですか？

やす江 全然ない。ウチ、ずっと食べてるが元気そのものやからな。

アキラ 詳しく調べないと分かりませんよ。

やす江 そんなん言う奴は喰うに困った経験がないからや。人間はな、強いんや。便所虫より上やとウチは思うで。

龍 話が変わってますよ。

やす江 それにやで、ウチので変になったて苦情は一切ない。おいしかったて手紙はたまに来るで。

アキラ ホントですか？

やす江 おい、チンピラ。お前信用してへんな。ほんなら、大阪の百貨店の食料品売り場行ってみ。

アキラ おばあちゃんの売ってるんですか？

やす江がピースポーズをして固まる。

龍 (やす江を指差し) この写真入りでな。

やす江 十キロ、三万円や。中国の富裕層言うのが買っていく。ブランド米やさかいTPPでも平気や。逆に輸出までするで。

アキラ それで近所のヒトがおばあちゃんに近づいて来るんですね。

やす江 そうや。旦那死んでからは一人でできる分しかやってない。お前らが手伝うなら五ヘクターに広げて儲けも倍以上になる。農薬さままやで。

龍 そこまで開き直るなら尊敬しますわ。

やす江 だがな一度、大失敗したことある。

龍 大失敗？

やす江 ウチの旦那のあだ名覚えてるか？

龍 えっと……ドジョウ。

やす江 そうや、ヒゲがちよろつと生えて似てたからな。しかし元々そっくりやったワケやないで。ペットは飼い主に似るてよう言うやろ？

龍 はア。

やす江 旦那は逆や。ドジョウを飼い始めたら、だんだん似てきたんや。不思議やで、子供代わりに可愛がってたからかな。

龍 あの、どこが大失敗なんですか？

やす江 その大事に飼ってたドジョウの水槽に、ウチが農薬を一滴落としてもうた。そしたら腹向けて浮かんで、一瞬でドジョウが全滅や。旦那がエライ顔して怒ってな。

やす江が豪快に笑う。

全く笑えない二人。

やす江 大量に作り置きして隠してるんや。場所教えたから付いて来い。

龍 今からですか？

やす江 ええことに急も何もない。ウチ、明日には生きてないかも知れへんねんど。(アキラに) どチンピラ、お前もやぞ。

アキラ いいえ、私は。

やす江 おのれ、断る気か！

龍 こいつ、ホンマに関係ありません。

やす江 あるか、ないかはこつちが決める。それに全部聞いてもうたやんけ。アキラ 聞きたくなかったですよ。

言い争っていると、雄一が帰って来た。

雄一 ……何の騒ぎや？

龍 兄ちゃんこそ、仕事は？

雄一 暇やから、様子見に来た。

やす江 お前も役場なんて辞めて一緒に儲けへんか？

雄一 何のことですか？ (アキラに) お宅はどちらさんで？

アキラ 私は便利屋ですが、おばあさんに田んぼ手伝えと脅されて困ってるんです。

雄一 龍、意味分からんぞ。

龍 オレも分からん。

やす江 ペちやくちや無駄話をすな！ お前ら、行くぞ。

やす江、三人の背中を押して玄関へ行く。

アキラ 農薬の場所なんて知りたくないです。

雄一 農薬!?

やす江 アホ、声がデカイ。外に聞こえる。

やす江が龍、雄一、アキラを強引に引っ張って出ていく。  
暗転。

③

翌日の昼。

スマホの着信音が鳴り、舞台が明るくなる。

居間でジャージ姿の龍がスマホの画面を見るが出ない。

隣のアキラは紙を持っている。

アキラ 誰です？

龍 兄ちゃんや。

アキラ 出ないんですか？

龍 どうせ昼メシはちゃんと食べたかとかや。

龍が腹筋をして体を鍛え出す。

アキラは紙を見せて説明を始める。

アキラ (紙を指差し)これが西谷の家です。隣の敷地に大きな池があつて

鯉の養殖をしています。朝、ひとりで散歩をするのでそこが狙い目かと。

赤ペンで書かれた通り歩くと監視カメラには映りませんから。

龍はずっと体を動かしている。

アキラ 聞いてます？

龍 (運動を続けたまま) ああ。

アキラ もう一度言いましたよ？

龍 いや、大丈夫。

アキラ (紙を指差し)ここに鯉を飼っている大きな池があつて、西谷が朝

に散歩を。

龍 (運動をやめて) 何回言うねん。

アキラ すみません。あつ、これどうぞ。

アキラ、車のキーを龍に渡す。

龍 どこに停めた？

アキラ 初めて見たコンビニです。レインボーカラーの店で。

龍 タカハシやな。『酒・たばこ』って巨大看板があったやろ？

アキラ そうですね。なぜ田舎の看板って大きいんですかね。周りに何も無いからあんなにしないで目立つのに。不思議ですね。

龍 どうでもいいわ。で、チャカはトランクか？

アキラ ハイ、持ってきましたよ。試し撃ちもしないといけないですね。

龍 今はいらん。実家で血イ騒いでもかなわん。あとで山行って練習するわ。

アキラ やっぱ今回の件、考え直しません？ お兄さんや昨日のおばあ

さんは龍さんを歓迎してくれています。まるで普通の里帰りみたいですよ。

それを裏切るみたいで。

龍 別に裏切ってない。

アキラ 恵まれてるんです、龍さんは。ムシヨから出てきて住むところがあつて食うに困ることもない。その上、周りに温かいヒトたちまでいる。普通

通に働いても苦しい時代に幸せな立場です。現実を見て下さい。

龍 オレがここおるの知れたら、兄ちゃんどころか、村のヒトにも迷惑が

かかる。それも現実なんや。

アキラ ……明日ですよね。

龍 正確には十二時間後や。一緒に来てくれるか？

アキラ ……。

龍 はつきりしてるな、堅気になったら兄弟分も冷たいもんやで。(腕時計を見て) 早く帰れ。もうすぐ役場が終わる時間や。

アキラ 夜はどう過ごします？

龍 大阪に出る。ミナミでフグ食って、北新地の高級クラブ行って、帝国ホテルに泊まって、そこから計画を実行する。

アキラ 付き合っていますか？

龍 全部嘘や、ずっとここにおる。

アキラが、意を決したように立ち上がる。

アキラ 龍さん、やっぱり私も。

龍 (さえぎって) 何回も言わすなよ。出て行け。

アキラ 龍さん！

龍 ホンマ、うるさいヤツやで。無駄口を叩かんと帰れ。

アキラ 私も行きます。

龍 お前は邪魔や。

アキラ 龍さんがいつも正しい訳じゃないですよ。

龍 黙れ！ 帰れ帰れ。

龍、アキラを家から追い出す。

戻ってくると龍は銃を構えるポーズをして、早撃ちの練習を始める。

繰り返し繰り返し何度もある。

だんだんと厳しい表情になってくる。

そこへ帰ってくる雄一。

龍は慌てて銃を隠す。

雄一 ただいま。

龍 (笑顔になり) お帰り。ずっと寝てると体がなまるから、ちょっと走ってくるわ。

雄一 その前にちよつと聞けや。

雄一、スマホの画面を見せる。

雄一 どや？

龍 誰？

雄一 臨時職員の由香ちゃんや。どや？

龍 カワイイんやん、彼女？

雄一 ちゃう。

龍 今狙ってるコ？

雄一 そんなとちゃうねん。龍がどう思うかを聞いている。素直に言うてみい。

龍 うゝん、タイプやない。人を見かけで判断するのは嫌やけど、都会で失敗して帰って来たって感じやな。特に男選びは最悪。

雄一 偏見やぞ！ せっかく、お前のことをタイプや言うの探して来てや

ったのに。

龍 そんな頼んでない。

雄一 確かにバツイチでキャバ嬢してたから、スレてるかもしれへんけど。

龍 オレをいいなんて言う女は信用できん。

雄一 ほんなら誰とも結婚できへんがな。

龍 そういうことになるな。

雄一 逆にどんなんがタイプやねん？

龍 だから、いらんって。ただでさえ、ここは嫁不足や。他に回してあげて。

雄一 もしかして刑務所でオネエに目覚めたか？ よく映画とかであるやん。そういう相談にも兄ちゃんは乗るで。

龍、無視をして玄関に行こうとする。

それを腕を掴んで止める雄一。

雄一 答えんかい。

龍 オンナが好きに決まってるやろ。

雄一 じゃあ、胸はデカいのが好きか、小さい方か？ それともケツ派か？ 結構、尻フェチ多いらしいからな。でも、変わった趣味やと探すのは難しくなってくるで。

龍 ええ加減にしてや。

雄一 そうや、来月に役場の職員全員でバス借り切ってユニバに行くイベントがある。お前も入れたるから来い。それで好きなん選んだらええんちゃうか？

龍 (適当に) じゃあ、それで。

雄一 クールにしやがって。龍がむっつりスケベなんは知ってるねんで。

龍 何の話やの？

雄一 お前が小五の時、エロ本持って帰ってきた。あれ、すぐに無くなったやろ？ 兄ちゃんが先輩に売ったんや。親に捨てられたと思ってたんとちゃうか？

龍 分かってたで。

雄一 嘘つけ。

龍 オレが問い詰めたの覚えてない？ めっちゃ目エ泳いでたで。てか、泳ぎ過ぎ。北島康介かってぐらいやったわ。

雄一 兄ちゃんは別にカネが欲しかったんちゃうぞ。あんなんオトンが見つけたらヤバイと思っただんや。家庭平和のため嫌々やで。

龍 友達に借りてたから弁償するの大変やったわ。ウチは小遣い少なかったし。

雄一 ケチなこと言うな。今度のイベントに参加させたから我慢しろ。

龍 もう、行くで。

雄一 勝手に行きさらせ。

龍、スニーカーを履いて出ていく。

入れ替わるようにアキラがやってくる。

アキラ すみません。

雄一 (玄関を覗き) あっ、便利屋さん。どうぞ、入って

アキラ、雄一と向かい合って座る。

雄一 今、ジョギングに行ったから三十分もしたら戻ってくるわ。

アキラ 出て行くの、隠れて見てました。

雄一 何で声かけんかった？

アキラ 実はお兄さんにお話がありました。

雄一 ……嫌な予感するわ。

アキラ 時間がないので早速本題に。明日、龍さんはこの家を出て行きます。

詳しくは言いにくいですが……お聞きになります？

雄一 ああ。

アキラ 実は私、元ヤクザです。

雄一 うん、気付いてた。

アキラ 龍さんが鉄砲玉するまでは弟分として、あっ、年齢は同じなんですが入るのが私の方が遅かったの。

雄一 それ重要か？

アキラ 長年、一緒にやってきたということですよ。で、今回は頼まれごとをされました。

雄一 そら、すみません。

アキラ 別にいいんです。用意したのは車と組長の家の地図。前の事件で撃った相手ですね。あとは拳銃を。

雄一 (さえぎって) そ、それ以上言うな。何となく予想つくわ。

アキラ 分かりました。

雄一 で、私に何をして欲しいねん？

アキラ 龍さんがこの家から出ていくのを止めて下さい。

雄一 ……それは……できんな。

アキラ そんな。もし行ったらどうなるかお分かりですよね。家族だったら、力づくでもやめさせて下さい。

雄一 ……。

アキラ 一生、会えなくなるかもしれない。それでもいいんですか？

雄一 ……。

アキラ 龍さんは組長を撃ちに行くんですよ。失敗したら、終わりです。成功する確率は低いです。止めて下さい！

アキラが土下座する。

雄一 そんなこと、やめてくれ。

アキラ やめません。龍さんに生きて欲しいんです。私が言っても聞かないんです。お兄さんなら、何とかなるかも知れません。

雄一 ……。

アキラ 私の代わりに鉄砲玉をした命の恩人なんです。

雄一 あれは龍が望んでやってんやろ？

アキラ 私にもそう説明しましたが実際は違います。小さな組でしたが龍さんの下には私を含め、数人いました。だから、誰がやっても良かったんです。

雄一 それやのに、自らやったか。

アキラ (うなずき) 私たちにはさせたくなかったんです。出世できないって分かっていたからです。そんな兄貴分、世界中探してもいませんよ。

雄一 ええように言い過ぎや。

アキラ 今、弟分たちは堅気に戻って平和に暮らしてます。

雄一 それなら龍の思い通りになってんから良かったがな。今度もそうやろ

アキラ 今回はダメです。勢いだけでイける歳ではないです。

頭を床にこすりつけ土下座をするアキラ。

雄一 ……。

アキラ いくら頭を下げてでも足りないです。

雄一 やめてくれ。

アキラ やめません。私じや無理なんです。お願いします、お兄さん。お兄さんだったら龍さんを唯一止められる人間なんです。

雄一 やめろ。



アキラ お兄さんなら。

雄一 やめろって。

アキラ お兄さん。

雄一 やめんかいッ！

雄一、顔を真っ赤にして立ち上がる。

雄一 オレにも無理なんや！ アンタなんか言われんでも、この家から出て行かれんように手は尽くしてる！

アキラ ……。

雄一 刑務所から帰ってくる前から色々した。仕事用意したり、心のケアを考えたや、嫁の世話までしてあげたかった。でもな、止めれんもんは止めれんのじゃ！

アキラが土下座をやめ、顔をあげる。

雄一 ……おつきい声出してすまん。

アキラ いえ。

雄一 アンタに土下座されたの見て、昔のこと思い出して興奮してもうた。

アキラ 昔ですか？

雄一 龍が十七でここを去った日や。アイツ、高校で先生殴って退学になった。ここらでは偏差値一番の学校やってんけどな。

アキラ へえ。

雄一 当時、悪い仲間と夜になったら遊びに行ってた。家では今まで通りの弟やったから気にしてなかったけど、オトンとの仲は最悪やった。問題ばっかり起こすなら学校辞めて田んぼするか、出て行くかどっちかに決めて言われてた。

アキラ ……。

雄一 電話なんか鳴るたびに親はヒヤヒヤしてたわ。学校やろか、警察やろかって。

アキラ 私の家も似たようなものです。

雄一 龍が退学なった日。オカンが本気で頼むんや。「あのコ、家を出る気や。止めて」って。若い頃やったから適当に話を流してた。そうしたら突然、土下座をしたんや。「ウチが言うても、聞かん。お父さんも無理や。兄ちゃんならなんとかなるって」。

アキラ ……。

雄一　しょうがなく龍を説得した。近くのコンビニの駐車場だな。  
アキラ　タカハシですか？

雄一　そう、あそこや。アイツ、ウンウンてうなずくだけで言い返しもしせん。  
それで大丈夫やと思たら、次の日、おらんかった。

アキラ　……私、何も知らなくて、失礼なことばかり言いました。

雄一　いや、うれしかった。家族以外で龍を本気で思ってくれる方がおるな  
んて。おおきにな。

アキラ　……嫌なこと言っていていいですか？

雄一　おお。

アキラ　龍さん、死に急いであるような感じが。

雄一　何でそう思うんや？

アキラ　分からないですけど、いいヒトになりすぎてる気がします。下らな  
いこと言ってすみません。

雄一　かまへん。だが、これ以上は龍に深入りするのはやめや。

アキラ　……。

雄一　アホはアイツひとりで十分やで。

アキラ　私は龍さんのおかげでここまで。

雄一　（さえぎって）アンタも家族おるやろ。

アキラ　……龍さんも家族みたいなモンです。

雄一　所詮は他人。血イの繋がりもないクセに、軽々しく言うな。

アキラ　……。

雄一　口が過ぎたな。

アキラ　いえ。

雄一　何もせんで約束してくれ。

雄一　握手を求めろ。

躊躇するアキラ。

雄一　（アキラの手を取って）絶対やで。

アキラ　……。

雄一　そろそろ帰った方がいいわ。

アキラが頭を下げて出ていく。

雄一、すぐに不安が襲ってくる。

落ち着きがなくなり、同じ場所をぐるぐると回り出す。

そこに龍が帰ってきた。

龍 天気悪くなってきたからジョギングやめたわ。

雄一 ……。

龍 予報では雨降るて言うてなかってんけどな。

雄一 ……。

雄一は座って、不自然にスーパーのチラシを見始める。

仏間にいく龍、ポケットから銃を取り出し、ボストンバックにさっと入れる。

そして居間に戻ってくる。

龍、雄一に話しかけようとするが、なかなか声をかけられない。

龍 あ……あの……。

雄一 あとにしてくれへんか。今、献立考えてるんや。毎日、タカハシの弁当で飽きた。だから明日はメシ作る。カレーかハンバーグか二択や。カレーは安上がりやけど大鍋で作るから三日間は続く。だからツライ。しかしハンバーグは作るのが面倒やし、弁当によく入ってるから新鮮味がない。だけどチーズを乗せたり、ひき肉の割合を変えたりとオリジナリティは出る。あゝ難題やで。

龍 大事な話やねんけど。

雄一 晩飯よりか？

龍 たぶん。

雄一 何や、さっさと言うてみイ。

龍 ……明日、ここ出ていくわ。

雄一 アテはあるんか？

龍 昨日、便利屋来てたやろ。

雄一 イカツイ顔のか？

龍 うん、アレのトコに世話なるわ。事務所に住ませてもらえるし。

雄一 ここから通ったらええがな。

龍 電車で二時間半はかかるで。

雄一 焦らんでも、じっくり他の仕事も探してみたらどうや。

龍 オレみたいなんは、まともな会社は雇ってくれへんのとちゃうの？

雄一 それでも、急ぎ過ぎやで。

龍 いい大人がゆっくりしてたらアカン。早速、明日の朝一から仕事やねん。

雄一 朝一？

龍 スズメバチ退治やって。午前中は動きが鈍いから、そこを狙うねん。  
便利屋って色々するねんな。

雄一 本気で言うてんのか？

龍 当たり前やん。それに、オレは元々田舎には生まれへんねん。大阪の  
ドロドロした街が合う。清流の魚やなく、ドブ川のザリガニって感じやも  
ん。

雄一 ……

龍が仏間に戻ろうとすると、雄一が声をかける。

雄一 ちょっと待て。

龍 ん？

雄一 ……。

龍 何やの？

雄一 (龍の目を見て) 兄ちゃんに嘘つかんとつてくれよ。

龍 (目を合わせず) ……ついてない。

雄一 ホンマか？

龍 (目を見て) ホンマや。

雄一 ほんなら、ええわ。

立ち尽くす龍。

黙る雄一。

龍 ……オトンの話をしている？

雄一 何や、急に。

龍 ずっと言いたかったん。

雄一 じゃあ、してみ。

龍 オトンってホンマに変人やねんで。

雄一 何でや？

龍 オレ、大阪に出た時、次々給料の高いバイトへ転職を繰り返してキャ  
バクラの黒服になった。そこで知り合ったヒトからカジノバーの仕事を  
紹介してもらってん。それが裏社会への第一歩やった。

雄一 うん。

龍 カジノで働き出して半年が経った頃、どこで聞いたか知らんけど店  
に突然オトンがやってきた。それも菓子折り持ってやで。

雄一 へえ。

龍 働いてる全員に頭下げて「息子をよろしくお願いします」って。驚いたわ。

雄一 スゴいな。

龍 恥ずかしくてすぐ追い返した。その後、みんなからめっちゃバカにされたで。

雄一 ホンマモンの変わり者やな。

龍 (うなずき) 会ったのはそれが最後やった。オレ、ホンマの親不孝やで。

雄一 そやな。

龍 最近よく思うねん。オトンが奈良の山奥から電車を乗り継いで、あの汚い難波の細い路地歩いて何考えてたんやろうって。

雄一 ……。

龍 アホな息子に怒ってた、悲しんでた、それとも呆れてた……。

雄一 全部や。でもな、子供がどうなっても親は心配するし、応援もする。特にお前みたいなワルガキは可愛いんや。

龍 三十超えたワルガキか。

雄一 じゃ、兄ちゃんはおカンの話をする。

龍 うん、聞きたいわ。

雄一 オカン死んだあとに部屋片付けてたら日記が出てきたんや。それも何十年分もの。

龍 書いてるの全然知らなかった。

雄一 全部読んだが大した内容やなかった。

龍 そりゃ、タダのおばちゃんやもん。

雄一 ま、ひとつだけ気になったんが夢が書いてあった。オカンの夢、何やと思う？

龍 海外旅行とか？ 土曜の夜に『世界ふしぎ発見』楽しみに見てたもんや。

雄一 ちゃう。

龍 え、何やろ。結構、天体モノも好きやったな。何とか彗星とか流星群があつたら夜中ひとりで見に行ってた。だから宇宙旅行や。実は大きい夢があつたんとちゃう？

雄一 全然。かすりもせんや。

龍 焦らさんと教えてエや。

雄一 答えはな……田んぼしたいやつて。

龍 そんな毎日やつてたやん。

雄一 子供たちと昔みたいにな、家族四人で揃ってやりたいって書いてあつ

たんや。

龍 小さい夢やなア。

雄一 その日付見て驚いたわ。お前が出て行った日やで。あの日から龍の帰りをずっと待ってたんや。

龍 親ってありがたいもんやな。

雄一 亡くしてから気付いても、遅いがな。

龍 自分が情けないわ。

雄一 代わりにオレらが長生きしたらええ。それが親孝行やと兄ちゃんは思うで。

龍 そやな。

雄一 ……。

龍 ……明日、早いから荷物まとめとくわ。

仏間に戻り、カバンに荷物を詰め始める龍。

雄一 はまたチラシをチェックし始める。

二人とも黙々としている。

暗転。

④

次の日の明け方。

仏間に朝陽が差し込んでいる。

雄一 が布団で眠り、隣には服を着替えた龍が見下ろして立っている。足元にはボストンバックがある。

龍 ……兄ちゃん。

雄一 ……。

龍 オレ、行くわ。

雄一、寝た状態のまま喋り出す。

雄一 今回も龍を止めれんかったな。

龍 え？

雄一 止めれんどころか何も変えれんかった。

龍 ……。

雄一 ……お前に、もしなんかあったらオトンやオカンに何て報告したらええんや？

龍 心配せんていい。大丈夫や。

雄一 無能な兄ちゃんでごめんな。

龍 百点満点の兄ちゃんやで。

間がある。

雄一 龍が帰ってきて、ホンマにうれしかった。やっと、戻って来てくれたって。

龍 オトンの葬式以来やから七年ぶりか。いや、あれも顔拝んただけやから。

雄一 そういう意味とちゃう。

龍 ？

雄一 帰って来たのは、子供の頃の龍や。家族みんなが好きなああの優しい笑顔の弟。ヤクザになった龍やない、大好きなオレの弟が戻ってきたんや。

龍 ……。

雄一 でも、行くねんな？

龍 ……うん。

龍がポストンバックを持つ。

龍 兄ちゃん、さっき何も変えれんかったって言うたよな？

雄一 ああ。

龍 オレ、凄いわったで。

雄一 どんな風に。

龍 ええ風に。

雄一 そら良かった。

龍 ありがとう。

雄一 ……。

黙り込む龍と雄一。

龍　じゃあ。

寝たままピクリとも動かない雄一。  
龍は仏壇に手を合わせ、雄一に深く頭を下げて仏間を出る。  
居間のちゃぶ台に雄一に貰ったスマホを置く。  
そして室内を見回す。

龍　兄ちゃん。

雄一　……。

龍　この家出て行ってだいぶ経ったのに、寝て夢見るやろ。すると、この家が出てくるんや。いつなったら、それが無くなるんやろうと思ってるんけど未だにならずや。

雄一　……。

龍　だから、ここがオレのホンマの家やねんな。

雄一　……。

龍　……行ってきました。

龍が玄関へ向う。

そこで、むせび泣く声が聞こえてくる。

雄一が肩を震わせ、嗚咽を漏らして泣いているのだ。

龍は気付き、雄一にもう一度頭を下げる。

龍　お世話になりました。

雄一　……。

龍が家を出ていく。

雄一の泣き声が聞こえる中、溶暗。

⑤

四時間後。

雄一が居間で出勤の準備をしている。



雄一 (ポケットから取り出しながら) 財布よし、鍵よし、スマホも……。

雄一、ちゃぶ台に置いてある龍のスマホを手にする。

雄一 (じっと見て) ……。

仏間に行き、仏壇にスマホをそっと置く。

そして手を合わせる。

するとドアが開き、居間にやす江が飛び込んでくる。

やす江 知らんか！

雄一が居間にいく。

雄一 大きな声出して、どないしました？

やす江 知らんかって！

雄一 何が？

やす江 農薬や、農薬。どんな生き物もイチコロのあれや。

雄一 それが、何です？

やす江 無いんや、数えたら一本足りへん。弟はどこにおる？

雄一 龍はもうおらんねん。

やす江 どこへ行った？

雄一 分かんのです。

やす江 分からんって、ウチの田んぼをあのコに譲るんはもう決めてんで。

ハンコも押させた。勝手されたら許さんで。

雄一 そんなトコまで話が進んでたんですか。

やす江 とりあえず連絡取れ。

雄一 それが無理なんですわ。と言うか、時間ないんで仕事行っていい？

やす江 そんな悠長なこと言うてられん。仕事なんか休め、あれはたった一本でもエライ怖いねんで。

雄一 数え間違えちゃいます。あんなん龍はいらんで。それか、他のヤツがやす江 あれ知ってるのウチとお前ら兄弟とあの……。えー、名前何やったっけ。

慌てながら居間にやって来るアキラ。

やす江 そう、この便器屋だけや。

アキラ 便利屋です。

雄一 お宅までなんの用やの？

アキラ 用なんて、そんな小さいことじゃないです。ニュース見てないんですか。朝から大変ですよ。

アキラ、テレビをつける。隣に雄一とやす江が立つ。

チャンネルを回すが天気予報、CM、朝ドラとニュース番組がやっていない。

アキラ 私、昨日から寝ないでずっとチェックしてたんです。

雄一 何で？

アキラ 龍さんがアレをしたら、どう転んでもニュースになりますから。

雄一 そういえば、そうやな。

アキラ お兄さん、のんびりし過ぎですよ。

やす江 一体、何の話をしてんねん。

アキラ あった、これです！

テレビからニュースが聞こえる。

アナウンサーの声 日本最大手の鯉の養殖業者『西谷鯉センター』の錦鯉が大量死しました。池には数千匹という鯉がいましたが全滅。被害総額は百億円を越えると見られております。池には化学薬品が混入されたと思われる、現在も捜査が続いています。監視カメラには誰の姿も映ってなく内部犯行の線が濃いと見られております。

アキラ、テレビを消す。

やす江 ウチのドジョウと一緒にやがな！

アキラ 龍さんがやったんです。

雄一 何でアイツがそんなことするねん？

アキラ 組を潰すためですよ。

やす江 錦鯉の会社はヤクザなんか？

アキラ ハイ。これで会社は倒産します。

やす江 そら良かった。農薬はヤクザ殺すにも一発やな。さすが害虫駆除や

で。

やす江が大笑いする。

雄一 笑いごとちやうつて。

アキラ 笑いごとですよ。これで何もかも終わりました。金の無いヤクザは死んでも同然です。

アキラも大笑いする。

雄一 ということは、龍は助かるんか？

アキラ 龍さんを恨んでいたのはあそこの組長だけです。貧乏になったジイの戯言を誰が聞きます？ それどころか債権者に追い込みかけられてケツの毛エまでむしられ、数日後には大阪湾に死体浮かびます。お兄さん、おばあさん、龍さんはやりました！

アキラがバンザイを始める。

やす江も続く。

二人を止める雄一。

雄一 ちよ、ちよ、ちよと待て。じゃあ、歓迎会しなアカンがな。

やす江 よう分からんがやるぞ。

雄一 またちらし寿司を作らな。他の準備も大変やで。

やす江 お前、役場は？

雄一 もちろん休みますよ。急いで言うてきますわ。

やす江 ウチも用意始めよ。

雄一は笑顔で玄関に。

やす江は意気揚々とどこかへ連絡をしようとしてスマホを出す。

しかしアキラはずっと考え込んでいる。

アキラ あの〜。

雄一 帰って来てからにしてくれ。

やす江 ああ、電話のあとにしる。

アキラ 待ってください！

雄一とやす江が驚いて動きが止まる。

アキラ 龍さんは、帰ってきません。

アキラのところに来る雄一とやす江。

雄一 え、助かったんちゃうんか？

アキラ ハイ、助かりました。

やす江 ほな、他に行くトコも無いやろ？

アキラ 無いです。

雄一 どういうことや？

アキラ ほとぼりが冷めるまで戻らないんですよ。

雄一 ほとぼり？

アキラ 今、警察やヤクザは必死になって事件を調べてます。龍さんにたどり着くかもしれません。だから、身を隠しておく必要があるんです。

雄一 どれぐらいの期間や？

アキラ それほど長くは無いと思います。

雄一 (興奮して) 長くないって半年か一年か、それとも。

アキラ さあ。

雄一 「さあ」て何じゃ。ちゃんと教えろや！

雄一がアキラに詰め寄る。

やす江が間に入って止める。

やす江 興奮すな、チンピラも困ってるやろ。

そこに着信音が鳴る。

三人が確認するが誰のでもない。

雄一、「あつ」と気がつき、仏壇に置いたスマホを持って戻ってくる。

雄一 (画面を見て) 龍のにメールが来てる！

アキラ 本人からですよ。

やす江 何て書いてあるんや？

雄一 (スマホを触りながら) えっと、えっと。

やす江 はよ、言わんかい！

雄一 (画面を見て) 名前も、件名もない。

アキラ 龍さん以外ありえませんよ。  
雄一 そら、そうやな。……じゃあ、読むで。

息を飲むアキラとやす江。

雄一 『桜が咲く頃、帰る』。

やす江 ……それだけ？

雄一 それだけ。返信しよか？

アキラ やめてください。たぶん、もう連絡はつきません。

やす江 何でや？

アキラ 証拠を消すんです。そのスマホも捨てて連絡があったことも、龍さんがここに帰ってたことも全部忘れてください。

雄一 分かった、そうする。

アキラ おばあさんもですよ。

やす江 うん。村のモンにも口をつぐむように言うとかから安心せよ。

雄一 お願いします。

アキラ 気長に龍さんの帰りを待ちましょう。

うなづく雄一とやす江。

やす江 桜の頃か。(指を折りながら)半年後、ウチ生きてるかなア。

アキラ 私より元気そうですね。

やす江 (アキラの頭を叩き)当たり前じゃ。

雄一が突然、二人に深々と頭を下げる。

やす江 何や？

アキラ どうされました？

雄一 お二人のおかげで龍の命が助かりました。本当にありがとうございました。  
ました。

やす江 アホ。ウチは弟を助ける気なんかなかった。アンタに頼まれたから  
やっただけや。お前の頑張りか弟を救ったんやで。

アキラ そうです。私も龍さんと一緒に行くつもりでした。もし二人だった  
ら、これほど上手くいっていたか。お兄さんのおかげで私も助かったぐら  
いなんです。

雄一 (泣きながら)ホンマ、ホンマにありがとう。……ありがとう。……

ホンマにありがとう。

雄一の姿を見て、アキラももらい泣き。

やす江 (アキラに) お前まで。ええ大人の男がアホか。泣くのは身内の死んだ時だけにしとけ。

アキラ 私は親が死んでも涙は出なかったです。

雄一 オレはユーチューブで子犬の動画見て毎日泣いてる。

やす江 くだらん事言わんとブサイクなツラ上げんかい。

顔を上げる二人、しかし涙は止まらない。

やす江 ウチらは今まで通り普通に過ごすんや。それがアイツのためにもなる。分かったか？

雄一 はい。

アキラ はい。

やす江 分かったら、泣いてる暇なんかない。早く仕事へ行かんかい。この税金泥棒め。

雄一 (涙を拭き) その通りですわ。

やす江 チンピラもあくどく稼げ。

アキラ そうだ、今日はハチ退治があるので帰ります。

雄一 それは嘘やなかってんや。

アキラ 嘘？ 本当ですよ。午前中が狙い目なんです。だから急いで行かないと。

玄関に向かう雄一、アキラ、やす江。

雄一 今日はお酒飲んでないんですか？

やす江 アホ、今から飲むんじや。

アキラ アル中になりますよ。

やす江 もうなってるわい、ヤク中にもな。

雄一 ヤク中？

やす江 農薬の方や。

雄一 やす江さんにはかないませんわ。

三人、笑いながら家を出ていく。

その声がだんだん聞こえなくなり、  
暗転。

了